

ふきのとう 文庫だより

昭和48年1月13日第三種郵便物承認

HSK通巻番号612号

発行 令和5年3月10日

毎月10日発行 一部100円

編集 〒060-0006

札幌市中央区北6条西12丁目8番3

公益財団法人ふきのとう文庫

電話 (011) 222-4839

FAX (011) 222-4800

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会

細川久美子

ふきのとう文庫の現状

ふきのとう文庫 業務執行理事 野田 龍 一

一九七〇年を初年度としたふきのとう文庫の活動は、二〇二〇年に五十周年を迎えました。一九八二年にはそれまで仮住まいだった活動場所（事務室）も西区平和にふきのとう文庫独自の建物としてふきのとう子ども図書館を開設することができました。また、それから三十二年後の二〇一四年には、老朽化してきた建物と西区平和の奥地という地の利の悪さを考え、中央区北六条西十二丁目という交通の便のいい現在地に移転新築しました。ここまで、どんな活動も広がりを見せ、事業も順風満帆な姿を見せています。しかし、世の中の移り変わりに対応しつつも、更なる変化を余儀なくされていることもあります。

図書館部門、布の本部門、拡大写本部門と三つの柱がありますが、それぞれを見ていきたいと思います。まず図書館部門ですが、中央区に移転する前の西区平和では週二日の開館を週四日（日曜から水曜まで）にし、開館時間も以前は午前十時から午後三時だったものを午前九時半から午後四時までとしています。現段階では、これで充足していると思っていますが、利用しやすさを考えますと、週六日開館するのが理想でしょうか。財政的な問題等がクリアされていないこともあります。今後、考えていく課題だと思っています。

ふきのとう子ども図書館のスタートは小樽市立病院のふきのとう文庫が第一号で、入院している子どもたちに本を読んでもらうと始めたことによりです。一九七三年のことでした。その後、病院内の「ふきのとう文庫」は各地のボランティア団体により道内にとどまらず全国に広がりをみせましたが、外部からの支援から病院独自の図書室の場が一般的になっていきました。当文庫も北大病院文庫でのボランティア活動はあるものの、コロナ禍での現状ではなかなか思うような動きにはなっていないようです。これから病院文庫のあり方を考えていく必要もあります。

布の本部門ですが、一九七六年以来、目の不自由な子どもにも触れ合える本として海外の絵本を参考に独自で研究して作成を開始しました。それ以来、地道な製作活動を四十年以上も続けています。出来上がった布の本は、当図書館で読んだり貸し出ししたりしていますが（コロナ禍の現在は貸し出しを中止）、それ以外にも、日本全国の公的図書館に置かせて欲しいとのこと、格安で販売しています。一般の方からも求めたいとの要望があります。

れには応じていません。一冊一冊の製作に時間がかかることもあり、多くの注文を受けられないことと個人向けには出さないとの考え方からです。それら布の本の細かな仕上りの良さは、評価の高いところではありますが、五十人ほどのボランティアは全員が高齢化し、今後が心配されています。

実は、布の本の販売収益は貴重な事業収入として、ふきのとう文庫を運営していくための活動資金となっています。が、新たな人材を求められなかった一因でもあります。ふきのとう文庫は一般の公的支援を受けていないため、文庫運営の財源は一般的に寄付や賛助会費という名の法人・個人の寄付、赤い羽根などの民間の助成金によっています。そんな中、布の本の収益は全体収益の二割以上を占めています。欠くべからざるものとなってしまいました。ですから、多くの布の本を製作して日本全国の図書館に送り出すことが大きな目的になっていたのです。日本中の子どもたちに布の本を読んでもらえることに意義はありますが、そういった忙しさが次世代の作り手が育たなかったことに繋がります。今後はこの反省を踏まえて、新たな人材を募集し、販売ばかりではなく布の本作りが出来る人を育成することも目標にしなければなりません。

拡大写本部門については、弱視の子どもたちのための大きな字の本作りをしています。こちらも歴史は古く、一九八二年に弱視児のための本作りの依頼を受けたことから始まっています。単に一般的な絵本を拡大して作るのではなく、ページにどうしたらバランス良く無理なく読めるかを考えてレイアウトをし直します。また色合いも弱視特有の見えづらさを理解した色調にすることもあります。令和三年度には六十冊あまりの本を作成し、視覚支援学校に寄贈しました。また、日本全国に貸し出しをしています。拡大写本の製作者も多くはありません。布の本の製作者と同じように今後、新たな人材を育てていかなければならないでしょう。拡大写本は布の本とは違い販売はしていません。作成の財源は寄付などです。作れば作るほど費用は高みます。

総じて、財源の心配ばかりを書いていたことが、それでは今後のふきのとう文庫はどうなっていくのかということですが、実は今文庫だよりの別の紙面に書いてありますが、「子ども第三の居場所」という新たな事業も始めますし、運営の財源対策もしながら今までの事業の継続もしっかり行っていくこととしています。今後とも支援もお願いしながら、見守ってもらいたいと思っています。

令和五年度の事業及び収支計画について

一、事業活動については、令和二年からの新型コロナウイルス感染症も一応の収束を見せているため、令和五年度は従来の活動に戻れるものと考えて計画を立てています。また、令和三年度から進めていますコップさっぽろとの協働事業も三年目に入り、図書館内の活動にとどまらず積極的に外に向けて発信していきたいと思っています。コップさっぽろの「トドックステーション」での布の本、拡大写本の展示・閲覧やコップさっぽろの読みきかせグループを図書館に呼んでの「おはなし会」も予定しています。これにより今まで以上の人たちにふきのとう文庫を知って利用してもらうことを期待しています。

令和五年度の収支計画については、収入面で賛助会費・寄付金などを増額予算としました。昨年来の物価の高騰に対処することを考えますと、収入の設定額を上げざるを得なく、それを達成すべく外部に向けて働きかけていきます。共同募金会等の助成金は実績に即して算定しており、ほぼ予算通り獲得できると考えています。支出面では、事務局の強化で新たな職員を雇う

令和五年度 事業計画

一 子ども図書館の運営

- ① 子ども図書館の整備と貸出し
- ② 病院文庫（北大病院）の継続
- ③ 貸出し本の未返却防止作業継続
- ④ 子どもたちとの交流を大事に

二 布の本の製作

- ① 貸出し用・販売用の布の本・遊具の製作
- ② 布の本・遊具の材料セットの製作
- ③ 既存布の本の修理
- ④ 病院内の図書コーナーへの貸出し・寄贈
- ⑤ 布の本購入先からの依頼による修理・修復

三 拡大写本の製作

- ① 拡大写本の製作と貸出し
- ② 弱視児童への拡大漢字本製作及び寄贈
- ③ 拡大図書の視覚支援校への配本

四 コップさっぽろ「トドックステーション」での絵本などの閲覧・読みきかせなどで連携していく

五 子ども催事事業

六 布の本・拡大写本等の普及活動

- ① 布の本の製作スタッフを養成する講座等の研究
- ② ホームページを刷新し、SNSなど誰でもが見て利用しやすいものにする

- ③ パンフレットの作成活用
 - ④ 多目的室を使った常設的な環境整備
- ### 七 機関誌の発行
- ① ふきのとう文庫だよりの発行（年三回）七月・十一月・三月
- ### 八 賛助会員の拡充
- ① 賛助会員の拡大募集（機関誌・ホームページ・展示会・イベント・来館者）
 - ② 賛助会員拡大のための協力依頼・特に法人会員を増やすための方策
- ### 九（子ども第三の居場所事業）
- ・ 子どもの居場所作り・学習支援等
 - ・ 子どもの未来応援 支援事業の一環

◆ 一匹の木鼠に ◆

うたう会 藤井 啓代

私が初めて訪れた「ふきのとう文庫」はまだ平和の境近く、普通の民家のような佇まいでした。玄関を入って左手奥が、私の演奏する多目的室、今も使われていた。図書室と布の絵本等沢山の仕事上の部屋は、分かれていたと記憶しています。子ども達が家族と楽しい気に入った本を選んで、物語の世界に遊んでいる姿は今と変わらなく、幼い頃の幸せな時間を思い出します。

「うたう会」は初め、読み聞かせと一体化していましたが途中、他の影響を受けない、純



令和五年度 収支計画

(単位 千円)

	令和5年度	令和4年度
賛助会費	3,000	2,500
寄付金	2,200	2,000
助成金	2,400	2,000
事業収入	1,600	2,000
雑収入		
収入合計	9,200	8,500
管理費	6,950	5,800
事業費	2,250	2,700
支出合計	9,200	8,500
収支差益	0	0

粹な読み聞かせを望まれたことで、分離した今の形になってゆきました。担当者も何度か代わっています。その関わりは様々で、私の場合、長年視覚及び重複障害者教育に、深く携わってきた故前東氏が、私の歌の生徒だったこと、童謡唱歌の会でお世話になった斉藤さんから、当時ピアノ演奏者を探していると同ったこと、前東さんのご葬儀に参列できなかった私が、自分にできる形で、何かしたいと思ったこと等、様々な縁に結ばれた要因でした。多分すべての担当者が、それぞれ人との繋がりが、この場所や活動への深い思いに込め、参加したのだと思っています。

平和の滝近くでは、保育園児や幼稚園児に小学生と、今より参加者の年齢が少し上だったので、移転当初は選曲に苦労しました。プログラムは季節感や、子どもたちの反応を考え、対象年齢に幅を持たせて選びますが、私たちの想像をはるかに超えた年齢差がありました。

知っている歌が少ない小さなお子さん達どうしたら「うたう会」を楽しんでもらえるか、みんなで結構悩みました。結果、私達を助けてくれたのは、ご一緒のお父さん、お母さんでした。今の場所に移り、特に思うのは、お父さんの姿が増えたことです。積極的に子育てをされるお父さんの存在は、会の雰囲気を変えてくれて、お母さんたちの優しさに元気を足してくれたと感じています。子どもたちより先に盛り上がる（盛り上げてくれる）、率先して楽しみ、子どもたちより楽しめる、そんな構図が出来上がっています。知らない歌でも、わからないお話しの本でも、大好きなお父さん、お母さんが楽しいことは子どもも大好きです。

私たちが毎回思っていること。ここには沢山の人の手数の分、やさしさも思いもあふれている、大型絵本も布の絵本も、きれいなプログラムも歌詞カードも。そこに音楽も歌もあつて、柔かな子ども心に、楽しい記憶や幸福感として残ってくれたら、揺り籠の網をゆるする、木鼠の一匹になれるような気がします。

新しい拡大写本できました

約束 (全2冊)

村山 由佳 作 はまのゆか 絵

すてきなテーブル

ピーター・レイノルズ 絵と文

しあわせなふくろう

オランダ民話 ホイテーマ 文

いえででんしゃ

あさの あつこ 作

へいわとせんそう

たにかわ しゅんたろう 作 Noritake 絵

拡大写本の貸し出しについて

大きな字の本、あります

ふきのとう文庫では郵送での貸し出しをしています。

視力が弱いけれど本が大好きなお子さんや本を読んでもたいいけれどふきのとう子ども図書館に来られない方。子どもから大人まで自宅でゆっくりご覧ください。

※ふきのとう文庫のホームページに貸し出しリストがあります。貸出期間は1ヶ月から対応します。返却時の送料は自己負担となります。詳しくは電話等でふきのとう文庫にお問い合わせください。



子どものためのもよおし

予定表

2023 年度上半期



- 4月16日(日)13時30分～ おはなし会
- 23日(日)13時30分～ うたう会
- 5月14日(日)13時30分～ 仁木彩子ピアノ演奏会
- 21日(日)13時30分～ おはなし会
- 28日(日)13時30分～ ヤチシンコスの演奏会
- 29日(月)～31日(水)・6月4日(日) 木育ひろば
- 6月 4日(日)13時30分～ おはなし会
- 11日(日)13時30分～ 札幌シンフォニエッタ演奏会
- 18日(日)13時30分～ アンサンブル・フラテ演奏会
- 25日(日)13時30分～ うたう会
- 7月 9日(日)13時30分～ 手づくり遊び
- 16日(日)13時30分～ おはなし会
- 23日(日)13時30分～ 井上美豊子と楽しもう!
- 30日(日)13時30分～ 白毛満と楽しもう「腹話術」
- 8月20日(日)13時30分～ おはなし会
- 27日(日)13時30分～ 仁木彩子ピアノ演奏会
- 9月10日(日)13時30分～ うたう会
- 17日(日)13時30分～ おはなし会
- 24日(日)13時30分～ 人形劇団ひよっこ



ふきのとう子ども図書館 TEL 222-4839

子どものためのもよおし

予定表

2023 年度下半期



- 10月 8日(日)13時30分～ 井上美豊子と楽しもう!
- 15日(日)13時30分～ おはなし会
- 22日(日)13時30分～ 手づくり遊び
- 11月12日(日)13時30分～ アンサンブル・フラテ演奏会
- 19日(日)13時30分～ おはなし会
- 12月10日(日)13時30分～ うたう会
- 17日(日)13時30分～ おはなし会
- 1月21日(日)13時30分～ おはなし会
- 28日(日)13時30分～ 井上美豊子と楽しもう!
- 2月18日(日)13時30分～ おはなし会
- 25日(日)13時30分～ 白毛満と楽しもう「腹話術」
- 3月17日(日)13時30分～ おはなし会
- 24日(日)13時30分～ 手づくり遊び



ふきのとう子ども図書館 TEL 222-4839

「トドックさっぽろ」の協働事業

一昨年からは始まったトドックさっぽろとの協働事業は新型コロナウイルス禍で、二〇二一年度は実施されなかったのですが、二〇二二年度はトドックさっぽろの店舗等にあるトドックステーションにふきのとう文庫が参入して活動を行いました。「トドックひろば」と呼ばれているその施設は元々ゆつくり絵本を読んだり、木のおもちゃで遊んだりする場所ですが、そこにふきのとう文庫のたくさんのお本を更に持ち込み、「トドック・ふきのとう文庫えほんのひろば」としました。絵本の他、紙芝居や布の本も置き、訪れる親子が自由に触ったり、読みかかせをしたり出来る場をつくりました。また、弱視の子どものための拡大写本なども展示しながら、それらが必要な子どもたちの理解を深めてもらいました。

昨年七月にはトドックステーションやまはなで九日間、今年の一月には宅配トドック・札幌中央センターで六日間の開催となりました。

また、トドックさっぽろでの読みかかせの研修をされた方々が、当図書館の多目的ホールに来ていただいて、読みかかせの会を開くイベントも行いました。当文庫でもおはなし会を行っています。新たに「えほんがトドック」「えほんDe子育て」などの他の方面か



らの参加者を得、読みかかせの後には、布の本や拡大写本の作成室の見学もしていただき、より一層ふきのとう図書館の存在を知ってもらったと思っています。

ふきのとう子ども図書館は中央区にしかないので、ここから遠い南区や清田区などから来る方は少ない状況ですが、トドックステーションは市内各区にあり、同じような活動を一緒にやらせてもらうことで、より多くの子どもたちに絵本を読んでもらえると思っています。二〇二三年度もトドックさっぽろとの協働事業として進めていきます。

以下は読みかかせ会でのアンケートの一部です。



よみかかせ会についての自由記載

- ・とても楽しかったです！たくさんさんの読み手さんから一冊づつ読んでもらう機会はなかなかないので楽しかったです。手遊び歌があったのも良かったです。
- ・読み聞かせ、手遊び歌など息子は夢中で参加できました。シールや帽子のプレゼントも嬉しかったですように。
- ・おともだちと一緒に聞いているのが楽しそうです。

良かった。

・親が読む時の参考になった。

・子どもが良く聞いていました。大人も楽しめました。

・今度は上の子もつれて来たい

・一才三才とも飽きず楽しめました。ありがとうございました。

ふきのとう文庫について自由記載

・初めて来ましたが、素晴らしい図書館でまた家族でゆつくり来たいとおもいます。今日登録させて頂きます。布絵本やおもちゃも素晴らしいですね。だれでも（バリアフリー）遊べるようにという取り組みが素晴らしいと思いました。布絵本が素敵でした。

・子どもがイける場所が少ない気がするので楽しそうでした。

・きれいで、本も沢山あって素敵だと思いました。

・楽しかった。

・素敵な場所で、また来たいです。

・きれいな場所で、また来たいと思います。

・札幌にこんな素敵な施設がある事を初めて知ってとても有意義でした。わが子が小さい時に知っていたら面白い詰めていたと思います。

絵本を通じて垣根のない子ども同士の交流は素晴らしいと思います。

・絵本を通して垣根のない子ども同士の交流は素晴らしいと思います。



「子ども第三の居場所」の開設及び運営について

ふきのとう文庫では、「すべての子どもに本の喜びを！」をモットーとして、図書館での本の貸し出しなどを中心に事業を進めてきましたが、今回、日本財団が中心となって「すべての子どもたちが、未来への希望を持ち、これからの社会を生き抜く力を育むことのできる機会と環境を提供する」という活動に賛同し、公益財団法人として新たな事業に踏み出そうとしています。

ふきのとう文庫は、これを行うために、法律に基づいた公益目的事業の変更認定申請を必要としますので、まずは関係機関への手続きを行います。既に、日本財団に対して事業運営のための助成金の申請をしており、それが採択されていますので、かなり前に進んでいます。

それでは、どんな活動をしていくのかといえば、以下のようになります。

地域の子どもたちが気軽に立ち寄れる居場所を地域の人々と一緒に作っていく、交流を通じて人と関わる力や自己肯定感を育むとともに、課題を抱える子どもたちの早期発見や見守りを行うことが目的と活動です。自治体、学校、地域町内会、子ども支援の専門家（ソーシャルワーカー）、関係機関と連携して、子どもが抱える課題を解決出来るように取り組みます。

・子ども（未就学児～高校生）を中心に、地域住

民や保護者も参加可能

・週四日の開所

・フルタイムスタッフ、パートタイムスタッフ、ボランティアなどの体制

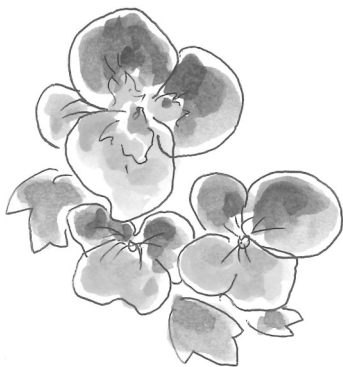
・課題を抱えた児童や、未就学児の親子などが参加できる居場所



・地域に住む高齢者や社会人も活動に関わり、多様な人々が活用・交流するための仕組み作り
こういったことを行うためには、施設が必要ですが、当文庫には多目的ホールがあり、そこを活用することで、事業が可能となります。

他に学習支援・子ども食堂のような活動も考えられますが、それについては、今後、考えていきます。それを推し進める財源は、日本財団が三年間助成が決めりましたが、その後、自治体や他の補助金、当文庫の自主事業、寄付金・会費等により運営を継続することを想定しています。

この事業に対する助成金の採択がなされた直後ですので、どう進めていくかを検討しています。令和五年度の早い時期に開所・運営が出来るように努めていきます。その時にはまた、案内を出したいと思っています。



三 「ふきのとう文庫」の地所物語

一 はじめに

当文庫だより一二八号では、当文庫が現在置かれてある地の界限について書きましたが、今回は範囲を狭くした当文庫が建っている地所について触れてみたいと思います。内容には僭越ながら私事に関することが多く出て来ますことをご容赦下さい。

二 札幌市西区平和の地

当文庫は、先代で小林静江創設理事長時代から自前の土地と施設を所有しており、子ども図書館としての役割をはたして来ました。

小林が大変苦勞をして自前の図書館を建てたのは、日本で初めて組織として布の本を製作し、それを主に図書館のルートを通じて広めようとしたことが最大の動機です。

安定して布の本を製作するには、多種の製作素材や道具を一定量常備しておく必要があります、そのためには工房を持つことが不可欠でした。

札幌市の西区平和の地で土地を寄附してくれる人があり、そこに図書館を建てました。

ユニークで希少な子ども図書館としての評価が高まり、作業場・展示室の増床分離、布の本の保守・管理、拡大写本の作業室も兼ねた多目的ホール等が、主に赤い羽根や馬主協会のご支援で機能分化し、大きな構の図書館に発展させることができました。

三 現在地への移転

しかしそこは西区の中でもJ R札幌駅から直線

で七キロの山間部で、図書館として立地条件は有利とは言えず、又築三十年を経て施設の劣化の進んで来たことなどがあり、約十年前にJ R札幌駅から一キロの地に移転して来たのです。

現在図書館のある場所は、北海道大学の前身である東北帝国大学農業大学の土地であり、そこから借地をした大学教授が集中して居住している一画でした。

その一画に入り込んだのが、私高倉嗣昌の祖父高倉安次郎でした。祖父は近江商人の血を引いており、北海道十勝を拠点として農工商にわたる手広い事業を展開（例えば現帯広信用金庫を創設）しました。そこで成功し、札幌で新事業に取り組みべく大正十年代に当時の大学関係の方が転居した後を受けて移って来たのです。

その土地は約千三百㎡で、住宅はすでにあつたのですが、相応の座敷と応接間がなかったため、大金をかけてそれらを増築しました。

しかし、札幌で起こした事業は当時の札幌ではスケールが大きすぎたこともあり、間もなく倒産。建物は人手に渡ってしまいました。

その後、私の父で安次郎の長男高倉新一郎が、隣住で北海道大学の歴史に残る大先生方からの影響と指導を受けて学者になり、昭和十六年人手に渡っていた物件を買い戻して現在地にもどって来たのです。

家屋の老朽化と私の成長・結婚に伴い安次郎が増築した座敷と応接間を除いた建物を順次寒地住宅として増改築し、大邸宅となりました。

約十五年前私の母ときが他界し、養子縁組して

いた私の妻（現当文庫理事）と二人で土地家屋を相続しました。

分不相応な資産を手にしたので、「ふきのとう文庫」に土地を提供し、賃貸マンションを建て、家賃収入で図書館を運営できないか試算したのですがいい結果が得られませんでした。結局土地の三分の二近くを当財団に寄附し、先代理事長が残してくれたものに多くの方々からのご支援も加えて、建物面積をあまり縮小することなく、新築移転に成功しました。

四 その後の展開

私の住宅は北側の土地に新築しました。残しておいた百年前の座敷や応接間（これまで主に新一郎の書斎、書庫、物入れとして使用）の文化財的価値を認めた熱心な借り手が表れ、中の物を断捨離し改装の後、高倉新一郎記念コーナーの意味を込めたレトロな喫茶店「BEANS」に生まれかわりました。

一階の喫茶店は当文庫活動とこれから多面的な関わりが出て来るでしょう。問題は昔民俗学者の柳田國夫が宿泊したこともある二階の座敷です。

これまでも廊下の部分には当文庫の記念物や椅子等の保管場所になって

いました。豊部分が二室で二十畳

あり、これを当文庫の活動と結合し

有効活用して行ける

否か、検討中です。

（高倉記）



2022年11月以降賛助会費納入一覧

個人(20名)

相原 靖	伊藤 静雄	宇井三喜子
大和田由美子	岡田有利子	奥山 慶一
上条 尚子	久保田 亨	黒木 克巳
小竹美智子	小林 洋子	佐藤 一夫
高倉実枝子	長岡 臣子	橋本真知子
濱崎 京子	久末久美子	古川 順子
岡安 泉	二通 諭	

団体(1団体)

北海学園大学同窓会

2022年11月以降寄附金納入一覧

個人(24名)

青山 誠	安藤 淑子	飯村 俊幸
市川亜由美	庵原 律子	宇井三喜子
奥野 和弘	熊野 清子	栗原 博子
小林 昌志	小間海多喜子	友光 啓子
中村テツ子	西村 公男	野田 龍一
鳩山由紀夫	福田 都代	藤井 和子
藤田 宮子	森永美恵子	吉川 秀樹
渡辺まりん	畠山 珠恵	小山内 恵

団体(4団体)

(株) 偕成社・生活クラブ生活協同組合

石狩管内高等学校図書館司書業務担当者研究
たねの会・竹田和子
ラウンジ「わ」

2022年11月以降寄贈一覧

11月13日	福田 都代	児童書 12冊
11月18日	童心社	ボタン多数
11月20日	和野 徳子	児童書 2冊
12月2日	偕成社	絵本 8冊
12月5日	林 孝子	絵本 1冊
12月18日	偕成社	手作り小物多数
12月25日	童心社	絵本 1冊
1月15日	童心社	絵本 2冊
1月22日	松田佐江子	絵本 1冊
2月5日	北海道獣医師会	絵本 5冊
2月7日	学研	書籍 1冊
2月10日	偕成社	児童書 1冊
2月17日	ちゅうでん教育振興財団	絵本 1冊
2月26日	学研	児童書 1冊
	福田 都代	絵本2冊・児童書4冊



行事一覧

11月6日	小学生のための語りの会	中止
11月6日～9日	コロナ感染症対策のため休館	
11月15日	運営会議	
11月20日	おはなし会中止	
12月4日	ピアノでクリスマスコンサート	
12月5日	おはなし会ミーティング	
12月6日	北翔大学 学生8名 布の本製作実習	
12月11日	うたう会	
12月13日	運営会議	
12月18日	おはなし会	
12月20日	COOPさっぽろ・えほん読み聞かせ会	
12月26日から1月7日まで	休館	
1月8日	開館	
1月15日	おはなし会	
1月22日	井上美豊子と楽しもう	
1月23日～28日	COOPトドックスションで展示会・読み聞かせ会	
1月25日	運営会議	
1月29日	手作り遊び「うさぎのもちつき」	
2月12日	うたう会	
2月15日	運営会議	
2月19日	おはなし会	
2月26日	評議員会	

賛助費、寄附、寄贈ご芳名 支援ありがとうございました。

—— 布の本テキスト・材料セット価格表 ——

材料セットには作り方説明書を同封しています。

テキスト No	布の本	テキスト	材料 セット	テキスト No	布の本	テキスト	材料 セット	テキスト No	布の本	テキスト	材料 セット
11	かくれんぼだあれ	200円	販売終了	15	おかあさん	200円	3030円		どんぐりころころ	なし	4360円
12	MY BOOK	200円	3320円		どうぶつ		1820円		おむすびころりん	なし	5560円
	このいろなあに		3850円	16	まる	200円	3320円	遊具	ジャンケンサイコロ	なし	600円
13	のりもの	200円	1620円		むし		2230円		やさいセット(8種)	なし	600円
	だれのうち		3320円	17	ちいさいおおきい	200円	3030円	遊具	くだものセット(7種)	なし	500円
14	Greeting	200円	3030円		さかな		1720円				
	おやつ		1720円		わっ!	なし	1720円				



「子どもの本を通して国際理解を深め、世界に平和を」という理念のJBBY (Japanese Board on Books for Young People・日本国際児童図書評議会) に対して、当文庫で作成した布の本十九冊を贈呈しました。この団体は「多様な背景をもつ人々の相互理解を促し、どんな子どもたちにとっても平和な未来の実現を目指す」という活動を行っているところで、今回はロシアのウクライナ侵攻のために国を出ざるを得なくなり、日本全国に住まわれているウクライナ人家族の支援です。そんなところからやって来た子どもたちに日本語がわからなくても楽しめる布の本・布の遊具などを取り混ぜて送り、大変感謝されました。

ウクライナ避難民への布の本の贈呈

あとがき

令和五年度の事業計画・収支計画もできあがり、それを評議員会に承認してもらった。図書館、布の本、拡大写本とそれぞれの活動もまた新年度を迎え気持ちも新たに進もうとしている。早春の穏やかさを味わっているが、何か今年は去年とは違う感じがする。コロナが収まりつつあることも一因だけれど、今号にも載せた文庫の活動が新たな方向にも進みつつあることが主たる要因だ。継続する事業の重要性も当然あるのだが、新事業に対する緊張感と期待感が入り交じり、文庫だよりも報告したいことがたくさん出てくるのではないかと思っている。

編集 公益財団法人ふきのとう文庫 代表理事 高倉 嗣 昌

〒060-0006 札幌市中央区北 6 条西12丁目 8
☎ 011-222-4839 FAX 011-222-4800
http://www.fukinotou.org
E-mail: fukinotoubunko@ceres.ocn.ne.jp
令和 5 年 3 月10日 発行
毎月10日発行一部100円 (維持会費に含む)

昭和48年 1 月13日 第 3 種郵便物承認
HSK 通巻612号
発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会
細川 久美子

郵便振替 = 02720-3-2300 銀行口座 = 北洋銀行本店営業部普通預金 0035764 公益財団法人ふきのとう文庫

この機関誌は、“北海道共同募金会の配分”により刊行しています。
維持会員・寄付者のみなさん、ありがとうございました。